



UR 都市機構

## 平成 22 年度研究報告会「団地・新時代へ ～新団地スタイルを拓く～」 の開催について

UR 都市機構（独立行政法人都市再生機構）は、調査研究等の成果を幅広く一般の方々に知っていただくため、下記のとおり研究報告会を開催いたします。

今回は「団地・新時代へ ～新団地スタイルを拓く～」をテーマに、機構職員による調査・研究の成果報告と、日本女子大学家政学部住居学科教授 定行まり子 氏の特別講演を行いますので、ぜひ御来場ください。

なお、これらは、国土交通省の住生活月間（10月）の取り組みの一環として開催されるものです。

### 記

#### 1 概要〔東京会場〕

##### （1）日時

平成 22 年 10 月 26 日（火） 10：30～17：00（開場 10：00）

##### （2）会場

津田ホール（定員 490 名）

東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-8-24

##### （3）内容

###### ①特別講演

「子どもが団地の未来を拓く ―子育て支援のための団地スタイル―」

（特別講師）日本女子大学 家政学部住居学科 教授 定行まり子 氏

###### ②調査研究等の報告

全 8 課題（別紙のとおり）

研究報告会用テキストは、当日会場で配布いたします。

##### （4）入場料・テキスト料

無料（事前申請は不要です）

#### 2 その他の会場

東京会場のほか、福岡・大阪・名古屋の会場においても、研究報告会を開催いたします。

##### 〔福岡会場〕

日時 10 月 20 日（水） 10：30～16：30（開場 10：00）

会場 NTT夢天神ホール

①特別講演

「団地が楽しいコミュニティをつくる！」

(特別講師) 福岡市 市長室 広報課長 佐々木喜美代 氏

②調査研究等の報告

全7課題 (別紙のとおり)

[大阪会場]

日時 10月21日(木) 10:30~16:30 (開場 10:00)

会場 テイジンホール

①特別講演

団地再生で介護がかわる ―超高齢社会におけるストック戦略―

(特別講師) 大阪市立大学大学院 生活科学研究科長寿社会総合科学講座 准教授  
三浦研 氏

②調査研究等の報告

全7課題 (別紙のとおり)

[名古屋会場]

日時 10月22日(金) 10:30~16:30 (開場 10:00)

会場 電気文化会館イベントホール (5階)

①特別講演

「高齢者の安心をつくる団地再生」

(特別講師) 名城大学 理工学部 建築学科 准教授 生田京子 氏

②調査研究等の報告

全7課題 (別紙のとおり)

詳細につきましては、UR都市機構(都市住宅技術研究所)ホームページを御覧ください。

(アドレス) <http://www.ur-net.go.jp/rd/houkokukai/>

お問い合わせは下記へお願いします。

本社 都市住宅技術研究所 都市再生調査チーム

(電話) 042-644-3751

本社 カスタマーコミュニケーション室 報道担当

(電話) 045-650-0887

## 平成22年度研究報告会

(メインテーマ、特別講師による特別講演及び報告課題)

### 1 メインテーマ

「団地・新時代へ ～新団地スタイルを拓く～」

「新団地スタイル」とは、従来の団地に対するイメージを払拭し、多くの人達が集まって住むことの良さを提唱するものです。

具体的には、高齢者にとっての住みやすさや、子育てを支える環境、コミュニティを息づかせる工夫、地球環境に配慮した生活の支援などソフト面の様々な取組み、そして古い建物を一新させ魅力的な空間を創るハード面の取組みなどを通じ、団地をより活き活きと暮らせる場所にするを目的としています。

研究所で行う調査研究も、実践的な取組みが中心となりつつあり、今回の研究報告会は、そうしたものの報告によって、「団地・新時代」を予感させるものにしていきたいと考えています。

### 2 特別講師による特別講演

[東京会場]

「子どもが団地の未来を拓く ―子育て支援のための団地スタイル―」

(特別講師) 日本女子大学 家政学部住居学科 教授 定行まり子 氏

かつて、団地はこどもの声が響いていました。再び、その光景は蘇るのでしょうか。いや、実際、団地居住者の高齢化は進んでいますが、団地を取り巻く地域にまで目を広げると、現代に沿ったかたちで、団地は地域の子どもの居場所となっています。そのことにもっと注目してみると、団地は新たな機能をもった魅力あるスタイルとして提示できるのではないのでしょうか。

30年間、子どもの視点から団地を見続けてきました。その変化を追いながら、子どもの成育環境としての団地に、光を当ててみたいと思います。

[福岡会場] 10月20日(水) NTT夢天神ホール

「団地が楽しいコミュニティをつくる！」

(特別講師) 福岡市 市長室 広報課長 佐々木喜美代氏

拡散するコミュニティで、共有する目的って何だろう

公団住宅がお父さんとお母さん、それに子どもが二人の住居だった40年～50年前から、公団はどのように変わってきたのでしょうか。同じ世代、同じ生活環境、ほぼ同じ収入の人たちが住んでいた頃は、コミュニティも円滑に回っていました。なぜなら、

家族が幸せだと感じる目的が共有できたから。盆踊り、キャンプ、餅つきなどみんながニコニコして参加していた幸せ感が。

しかし今、上野千鶴子がいうところの「おひとりさまの老後」生活を送る人たちが多くなり、住居というハコと家族という単位がずれてきています。そのずれてきたコミュニティで私たちは何を共有していけばいいのでしょうか。それを皆さんと考えていきたいと思います。

[大阪会場] 10月21日(木) テイジンホール

「団地再生で介護がかわる ―超高齢者社会におけるストック戦略―」

(特別講師) 大阪市立大学大学院 生活科学研究科 長寿社会総合科学講座 准教授

三浦研氏

わが国の高齢化は諸外国に比べてスピードが速く、高齢化率(65歳以上高齢者の割合)は2020年に29%、2055年には40%に達すると推計されている。とりわけ、地価が高く団塊世代の多く住む大都市周辺では、介護施設の建設が進まず、大量の介護難民の発生が危惧される。しかし、大都市近郊には高度経済成長期に建設された団地も多い。こうした老朽化したストックに近年の団地再生技術を活かせば、従来の特別養護老人ホームにくらべて広い居住空間を持つ、新しい介護付きの住まいを合理的なコストで実現できる。国内外の参考事例の紹介、超高齢社会の到来に向けた団地ストックの活用方法、そのために必要な介護保険上の課題について講演する。

[名古屋会場] 10月22日(金) 電気文化会館イベントホール(5階)

「高齢者の安心をつくる団地再生」

(特別講師) 名城大学 理工学部建築学科 准教授 生田京子氏

1970年代前後に開発された団地において、昨今、居住者の高齢化が顕著になってきています。団地の老朽化とともにその再生手法について検討される中、これを機会に高齢者の方々が安心して団地に暮らしていける仕組みを取り入れて行くことが望まれています。それには、元気な時から団地のなかでどのようにネットワークを育み維持していくことができるか、そしていざという時にどのようなサポートが周りにあり選択できるか、など様々な角度から考えていくことが重要です。ここでは、全国の高齢者サポート拠点の事例や、先進的な高齢者住宅の事例、団地再生の事例などについて触れながら、成熟していく団地の姿について考えてみたいと思います。

### 3 調査研究等の報告

- (1) 低炭素まちづくりにおけるMACCの応用
- (2) UR賃貸住宅のCO2排出削減に関する検討

- ～居住者ニーズの把握と連携方策の抽出～
- (3) 屋上緑化技術の検証に関する検討調査  
～北砂五丁目団地屋上緑化について～
  - (4) 柏北部東地区における「農あるまちづくり」の取り組みについて
  - (5) 都市における地域コミュニティ調査研究  
～活力あるミッション型コミュニティの形成に向けて～
  - (6) 新しい高齢者のライフスタイルと住宅選択に関する調査
  - (7) 高齢者等の安心居住を支える見守りシステム構築に関する研究  
～見守り安心ネット公田町プロジェクトでの取り組み～
  - (8) ルネッサンス計画1ーひばりが丘団地ストック再生実証実験  
～団地再生におけるハード技術開発の取り組み～

なお、下記の各会場では、(2)、(3)、(5)～(8)の課題の他に、(1)、(4)に代えて、次の課題を加えた計7課題の報告となります。

- [福岡会場] 既存ストックを活用した子育て支援環境創出の取組  
～アーベインネルス梅光園における集会所の改修について～
- [大阪会場] ルネッサンス計画1ー向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験  
～法申請の概要とストック改修における法規上の課題について～
- [名古屋会場] 中部支社における団地再生の取り組みについて